

【昨年度の取組】

取組 ※「結果・分析・取組シート 4 取組」を転記

自己選択
課題や学習方法を選択する場を作る。

目的意識
児童の中に「なぜ?」「どうして?」「何のため?」が浮かぶ発問をする。

繰り返す
授業の導入時に基礎的基本的な学力の定着を図る時間を設ける。

協同
単元の中に1回は、友達と体験的に学ぶ時間を設定する。

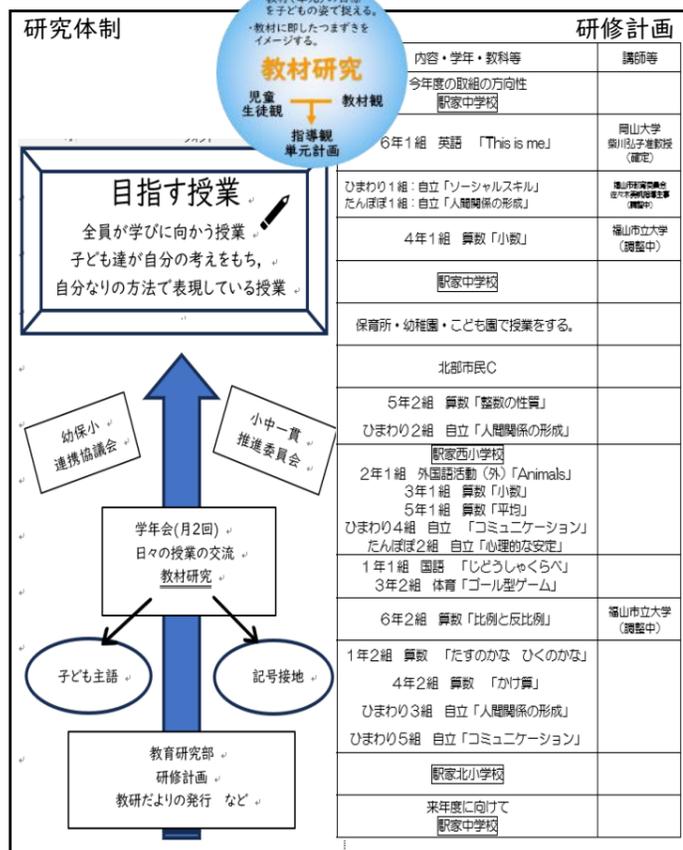
表現する
授業の中で、ロイノートやノートなどの様々な方法で自分の考えを必ず表現させる。(条件に沿って)

取組状況 (どう取り組んだか)
上記の5つの視点を意識した授業づくりができるように、学びづくり案にどの場面で意識するのか明記するようにした。
また、5つの視点が児童の思考力・判断力・表現力の育成に有効であったかどうか、各担任がそれぞれの授業で取り組んだことがどうであったか等、それぞれの取組に対して検証を行い、PDCA サイクルを行った。

【校内研究体制の構築・再構築】

※「福山 100NEN 教育」9th year 基本的な考え方 P4,13,17 を参照

研究テーマ
主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成
めらんでみよう!めいてみよう!
めってみよう!しんじあう友め はっぴんしょう!



【取組の結果】

(1) 全国学力学習状況調査
〔児童質問紙〕(%)

番号	質問事項 (「主体的・対話的で深い学び」に関する項目)	「1」「2」を回答した児童の割合		
		国	自校現小6生 今年度	自校現小5生 昨年度 (小5時)
32	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。			
33	5年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。			
34	5年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。			
35	5年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。			
36	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。			
37	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。			
38	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。			—
32~38の意識合計				

〔正答率〕(%) ()内は国平均

	2022 (R4)			2023 (R5)			2024 (R6)		
	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満	正答率	無答率	40%未満
国語	()	()	()	()	()	()	()	()	()
算数	()	()	()	()	()	()	()	()	()
合計	()	()	()	()	()	()	()	()	()

〔調査問題〕 ※ 課題となる問題を選択し、課題と考えられることを記入

問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語	※ なぜこの問題が解けないのか、つまづきのもとを考える (国・数とも)
算数	

自校の位置は [] 群

(2) 学力の伸びを把握する調査 ※ 学年平均を記入
〔学習方略〕 ()内は市平均

	柔軟的方略			プランニング方略			作業方略			認知的方略			努力調整方略		
	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
4年	—	—	()	—	—	()	—	—	()	—	—	()	—	—	()
5年	—	()	()	—	()	()	—	()	()	—	()	()	—	()	()
6年	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()

〔学力を伸ばした児童の割合〕(%)

	R4→5		R5→6	
	国語	算数	国語	算数
5年	—	—	()	()
6年	()	()	()	()

〔調査問題〕

	問題番号	要因(何を課題と考えるか)
国語		
算数		

【分析】 ※ 今年度の結果に対する評価及びその要因を記入

評価 (結果をどう見たか)
※ 「学力の伸びを把握する調査」についても記載する

要因 (なぜそのような結果になったか)

【今年度の取組】

※ 分析と仮説に基づき、取組と検証方法を記入

仮説
※ 研究テーマとの整合性を図り、1年間で検証可能な仮説を立てる

取組
※ 授業改善に係るものを中心とし、仮説に基づく取組を考える

検証方法
※ 仮説を検証する